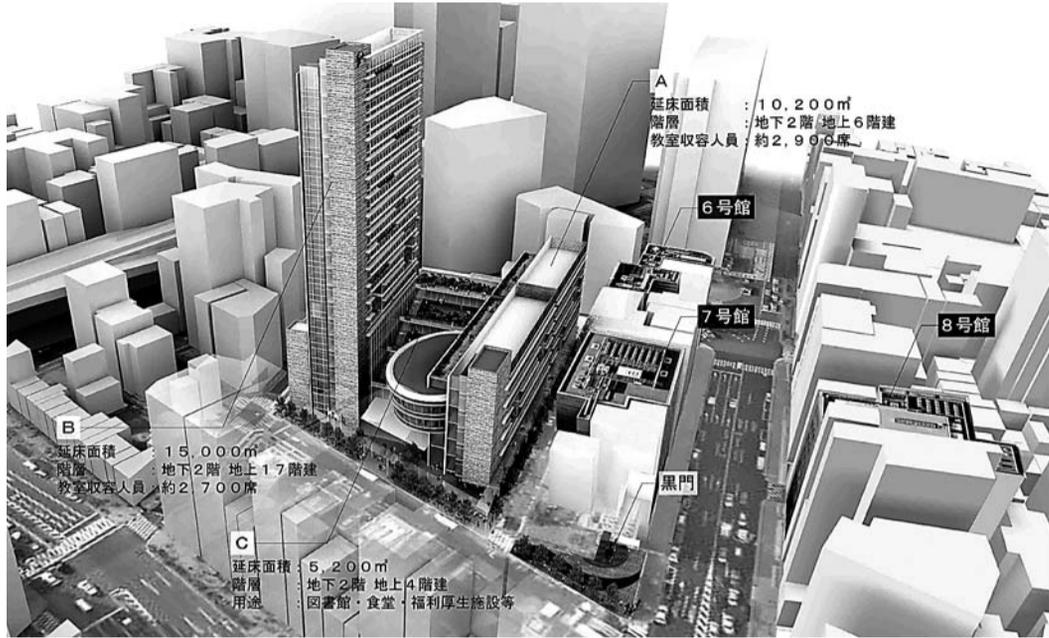


キャンパス構想の試案について

学校法人専修大学理事長 日高 義博



神田キャンパス 建築面積の増と省エネ

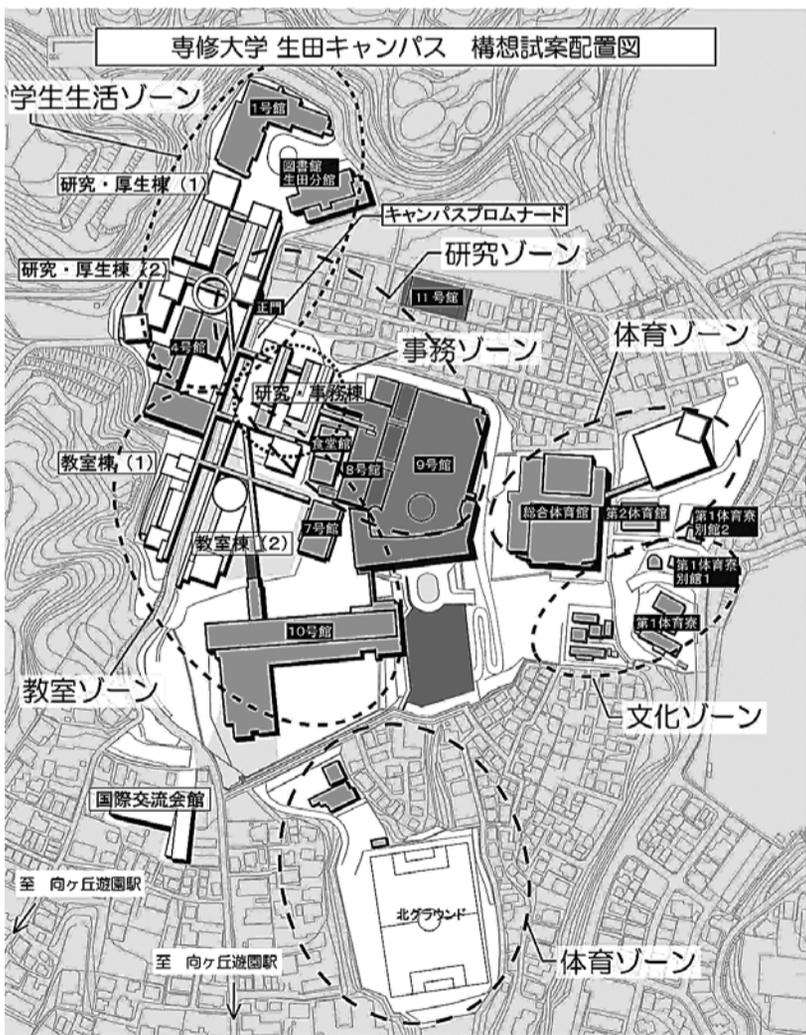
建物A B Cの建築可能な合計面積は、現行法規で約30,400㎡となり、既存神田校舎の1・2・3号館より概ね4,800㎡増加します。神田校舎については授業やほかの大学業務を出来る限り残しながら工事を行う手法を採ることが可能であり、解体した部分に新

築し、次の解体を行い、順次これを繰り返して建築することができます。省エネ対策としては、雨水・地下水の利用や太陽光発電など立地条件において利用可能な自然エネルギーを最大限利用できます。

ニュース専修1月15日号の年頭所感で申し上げましたが、ここにキャンパス構想の試案を提示致します。キャンパス構想については理事会においても検討されてきましたが、まだ確定稿を出せるに至っておりません。今回はあくまでも試案の提示であることをご承知おきください。

18歳人口のさらなる減少や、それに伴う学部の収容定員の変動などが予測される中において、キャンパス構想を実現するには、財政基盤を強固なものにしておくことが必要です。解決しなければならぬ問題も山積みです。変

神田キャンパスにあっては、校舎の建て直しの時期が迫っており、生田キャンパスについては、キャンパス内の動線の確保とゾーニングの設定に基づく校舎の配置が必要になっていきます。キャンパス整備のハードの問題は、どのような教育を行うのかというソフトの問題と連動して進んでいくべきです。具体的な備に関するプロジェクトなどを立ち上げていきたいと思



生田キャンパス 緑豊かな環境と機能性

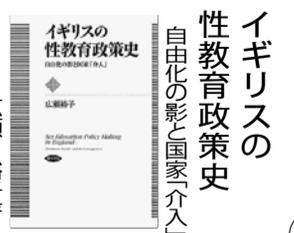
試案は、現在の学生数や教職員数を基に、大まかなゾーニングを設けたうえで、現在の用途面積を前提として主要な建物を配置してみたものです。個々の建物の用途や規模など、検討すべき事柄は多々あり、詳細は詰められていません。

生田校舎は建物数が多く、新旧の建物が散在しておりますので、まずはゾ

ーニングを策定し、動線を確保したうえで建て直しを行う必要があります。試案では、学生の動線をスムーズにし、機能的で安全なキャンパスに生まれ変わることを念頭にしています。

緑豊かな環境を生かした優しいキャンパスとなるよう、自然エネルギーを利用して、コストの低減を図ることも考えています。

専修人の新しい本



広瀬 裕子著

子どもに「性」をどう教えるかという問題を、サッチャー政府は国策として考えた。背後には十代の望まない妊娠や性感染症の拡大がある。本書は、イギリスに登場した性教育義務化政策が具体化するまでの錯綜を描いている。「性」を教育政策の領域で論じた異色の



矢澤 昇治編著

専修大学今村法律研究室を中心に公開シンポジウムを3回にわたって開催した。関係者の報告や討議、実例の検証から、なぜ冤罪(えんざい)事件が後を絶たず、無実を晴らすことが困難なのか、日本の刑事司法ボとなった。その模様を再



嶺井 正也編著

日本における公立小・中学校選択制の実態調査を踏まえた著作の三作目。セミナーが執筆に加わっている。前橋市や長崎市における選択制見直しの動きが2008年度に始まったことに基づき学校選択制が転換点を迎えるつとあると指摘した点

の「性」を学校教育で扱うことには賛否がある。公権力が私的領域に干渉するから、サッチャーの政策は、実のところ支持母体の保守層を反対勢力として進めようとした。この保守のねじれを、本書は、錯綜を解き進む手掛りとして、浮き彫りになるのは、近代社会に宿命的な基盤流動の問題だ。

現したのが本書だ。「袴田事件」「狭山事件」「布川事件」など取り上げた事件は10件を超えた。DNA再鑑定の結果、菅家利和さんの無期懲役刑の執行が停止され、再審が始まった「足利事件」。その功労者、同事件支援者の西巻孝子さんへのインタビューも掲載。菅家さんの自白の変遷に接し、「おかし」と感じて行動に移した西巻さんは救済活動とは無縁の家庭の主婦。西巻さんの市民としての「澄んだ目」がいかに大切か、その談話から伝わってくる。(花伝社・本体1700円+税)

が今回の特徴。学校選択制を本格的に導入した品川区(足立区、広島市などの定点観測だけでなく新しく那覇市の分析も行っている)さらにはアメリカのセントポール市とシカゴ市での選択制も紹介されている。前作は教育ハウチャー批判も展開していたが、今回は近代公教育制度における学校選択制の原理的問題を論じ、学校選択制をめぐる論争に一石を投じている。(八月書館・本体1400円+税)

編著者(みねい・まさや)は経営学部教授。主な担当は教育原論。